

教育講演 抄録原稿

■演題名 日本語（全角 66 文字以内）

ソーシャルキャピタルと災害被害者の健康

■演題名 英語（50words 以内）

Social capital and health of the disaster victims



■筆頭演者名

氏名 日本語：古本 尚樹

氏名 ローマ字：Furumoto Naoki

現職：公益財団法人 地震予知総合研究振興会 東濃地震科学研究所
主任研究員

■共同演者 1（共同演者最大 15 名まで登録可能）

氏名 日本語：○○ ○○

氏名 ローマ字：○○○○ ○○○○

現職：○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

■抄録本文（総文字数 900 文字以内）

目的：熊本地震発災後被災者の健康と生活にどのような状況があり、健康との関係を考える。ソーシャル・キャピタルについての関係を調べる。熊本地震において復興の過渡期であり、こうした中で、災害後 1 年を経て「熊本地震後の健康と生活に関する調査」を被災自治体との協力でを行い、被災者が実際にどのような環境の中で、どのような意向を有しているか、また健康への意識、コミュニティとの関係等ソーシャル・キャピタルに関する内容を調査することにより、今後の大規模災害後災害医療のうち中長期的視野での被災者の健康・ケアの資料としたい。

方法：熊本県西原村の被災者へ面接式質問票による（タイトル：熊本地震後の健康と生活に関する調査）。本研究における検定は χ^2 乗検定を主に利用した。

結果： χ^2 乗検定での分析では、調査時の健康変化と医療機関への通院変化に関連があった。避難生活中の疾病・症状との関連も認められた。また、関連して医療機関への通院の有無・投薬の有無についても関連があった。調査者自身の生活全般の復興具合とともに村全体の復興具合にも関連が認められた。その他、ソーシャル・キャピタルに関する関係が示唆された。地震発生後に、区長や消防団等の人からの避難呼びかけの有無と調査時の健康について、 χ^2 乗検定ではいずれにも有意差が認められ、関連が認められた。

結論：避難生活中の疾病が地震後 1 年後の健康意識に関与が示唆されたり、自身の復興度合や村全体の復興度合との関係でも同様の結果が出た。一見関係の有無が表面化しにくい要素・分野での支援や配慮が被災者の長期にわたる健康維持に影響を及ぼしていることが明示されたと考える。

キーワード：熊本地震、健康、ソーシャル・キャピタル、生活、被災者

■ご略歴（5 行程度）

- ・札幌光星高等学校普通科卒業
- ・北海道大学教育学部教育学科教育計画専攻卒業
- ・北海道大学大学院教育学研究科教育福祉専攻修士課程修了
- ・北海道大学大学院医学研究科社会医学専攻地域家庭医療学講座プライマリ・ケア医学分野（医療システム学）博士課程修了（医学博士）（以上、学歴）
- ・浜松医科大学医学部医学科地域医療学講座特任助教
- ・東京大学医学部附属病院救急部特任研究員
- ・公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター研究部 主任研究員
- ・熊本大学大学院自然科学研究科附属減災型社会システム実践研究教育センター特任准教授
- ・公益財団法人 地震予知総合研究振興会 東濃地震科学研究所主任研究員（現在）（以上、職歴）